

---

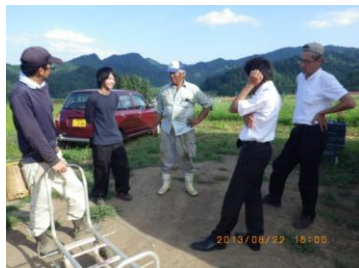
平成 25 年

# 8 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業革新支援センターの取組～



岐阜県農政部農業経営課

## 活力ある新産地づくり

### 中濃農林 ■ 円空さといも **円空さといもプロジェクト推進委員会**

J Aめぐみの、中濃里芋生産組合、商工会議所および飲食業組合等で構成される「円空さといも産地振興プロジェクト」の第1回推進委員会が8月21日に開催された。農業普及課が取りまとめた加工品の試作に関するアンケート結果の報告を皮切りに、指定店制度の設立や加工品の試験販売等について盛んに意見が交わされた。今後も円空さといもブランド力向上のため、生産、加工、販売面で総合的な支援を行っていく。



【委員会の様子】

## 売れる農畜産物づくり

### 岐阜農林 ■ えだまめ **GAP巡回調査実施、副読本の指導**

JAぎふえだまめ部会では、平成22年度からGAPの取組を開始している。部会役員、J A職員、農業普及課が、7月19日～8月8日の間に5回で計102戸の現地調査を行い、チェックすべき29項目についての改善点等指導を行った。以前と比較すると、GAPに対する意識が向上している状況であった。

一方、7月30日には農業普及課が岐阜市内の小学校教員に対してえだまめ栽培研修会を行い、産地の取組などを紹介した。今年度から市内の社会科3年生の副読本のえだまめ頁が増加したことによるもので、昨年から2回目の実施となる。



【GAP調査の様子】

### 西濃農林 ■ キュウリ **黄化えそ病対策研修会及び土壌診断説明会**

8月1日に海津胡瓜部会が、キュウリ黄化えそ病対策研修会及び土壌診断説明会を開催した。

研修会では、農業革新支援専門員と病害虫防除所から、黄化えそ病の症状、ミナミキイロアザミウマの生態と防除対策等について説明した。

また、説明会では、農業普及課から土壌診断結果に基づく適正な施肥について説明した。抑制栽培は、8月3日から播種、8月17日から定植が始まっており、農業普及課では、ミナミキイロアザミウマの防除対策、土壌診断結果に基づく適正な施肥等の栽培管理指導を行っている。



【熱心に説明を聞く生産者】

### 郡上農林 ■ 夏秋トマト **郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会PR活動**

8月13日に郡上踊りの会場に近い城下町プラザで郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会の若手農業者が中心となって、郡上産夏秋トマトのPR活動を初めて行なった。

今回のPR活動は、農業者が直接販売することで、郡上がトマトの産地であることを広く一般に認識してもらうとともに、直接消費者の反応を見ることを目的に行なった。

農業普及課では、夏秋トマト部会若手農業者の企画・準備がスムーズに進むよう各関係機関・団体に働きかけを行うとともに、連携してバックアップを行った。

PR活動では、予想以上に消費者の反応が良く、若手農業者は、郡上産夏秋トマトの評価に手応えを感じ、今後も高品質なトマト生産に取り組む意欲を新たにしていた。



【販売PRを行う若手部会員】

## 多様な担い手の育成・確保

### 可茂農林 ■ 葛屋営農組合（七宗町） **集落営農組合の活動状況**

農業普及課では、「集落農地を守る営農システム確立事業」の今年度モデル地区内の葛屋営農組合に対し、栽培管理指導のほか、月1回の組合役員会（事業システム検討委員会）で地域が主体的に取り組む集落営農活動について啓発、誘導を図るなど、J A、町等の関係機関と連携して、様々な支援を実施している。

このような中、同地区では現在、猪を中心とした獣害が課題となっている。そこで、8月1日に可茂地域鳥獣被害対策チームが、同地区モデルほ場（県鳥獣被害対策緊急支援事業）で鳥獣被害防止柵（猪鹿無猿柵）設置研修を開催した。

研修では、猛暑の中、同営農組合役員、市町村、J A、県庁農村振興課、農林事務所の担当者が参加して柵の設置作業を行い、作業の留意点等について体感してもらった。この研修をもとに8月3日には、同集落全員参加による柵の設置作業が実施され、総延長約600mにわたる設置が完了した。



【猪鹿無猿柵設置後の様子】

### 東濃農林 ■ 土岐地域農業経営者協会 **視察研修会開催**

土岐地域農業経営者協会は、土岐地区農業普及事業推進協議会との共催で、8月5日に郡上市で集落営農による鳥獣被害対策などの視察研修会を開催した。

管内の市街地近辺でも、鳥獣による被害が見受けられるようになり、農業者・関係機関の鳥獣被害対策の関心は高まりつつある中、今回の視察研修会開催に結びついた。

視察先である郡上市宮地集落及び農村振興課の協力を得て、被害対策について講義を受けた。集落ぐるみで行うことや継続性の大切さはもとより、農業集落（自治会）の存続につながる取組として、感銘を受けた農業者も多く見受けられ、地元集落での視察研修会を企画したいとの声も聞かれた。

本協会は、管内の主要な農業者が会員となっており、品目は異なっても農業者同士の交流の場・次世代を育成する場として、重要な役割を果たしており、農業普及課としても本協会の支援を継続していく。



【室内研修の様子】

### 恵那農林 ■ 夏秋トマト、夏秋なす **新規栽培者の掘り起こしを目指し栽培見学ツアー開催**

東美濃夏秋トマト生産協議会と東美濃夏秋なす生産協議会では、新規栽培者の掘り起こしを目的に、品目毎に栽培見学ツアーを開催している。今年は8月25日に開催したところ、トマトコースとなすコースで計27名が参加し、管内の生産ほ場と選果場を視察した。

ほ場視察では、普及指導員から栽培概要の説明の後、生産者から直接、生産出荷の苦楽が農家の声として伝えられるとともに、「是非、一緒にやろう」と熱いエールが送られた。参加者らは、家庭菜園との違いを実感するとともに、自分自身が取り組んだ場合をイメージしながら、聞き入っていた。

また、選果場では、J A担当者から管内産のトマト・なすに対し、市場・量販店から高い評価とニーズがあることや、具体的な流通経路等について説明が行われた。

ツアー終了後のアンケートでは、次年度以降の生産出荷を検討している方がいることから、農業普及課では、このような方を対象に情報提供や支援に取り組み、本ツアーで高められた関心を生産開始に向けた具体化に結びつくよう支援していく。



【生産者の説明に聞き入る参加者】

### 下呂農林 ■ 担い手育成 **農業後継者交流会を開催**

下呂地区指導農業士会と青年農業士会は、下呂地域担い手育成総合支援協議会の支援を受

け、8月30日に下呂市森のエーピクで農業後継者交流会を開催した。

交流会には、新規就農者を含む若手農業者、指導農業士や関係者等58名が参加して盛大に行われた。3名の新規就農者は、自身の経営概要や将来目標等を発表した。一方、県議会議員、県農政部長、下呂市長からは、下呂地域の若手農業者の活躍に期待する激励の言葉が贈られた。

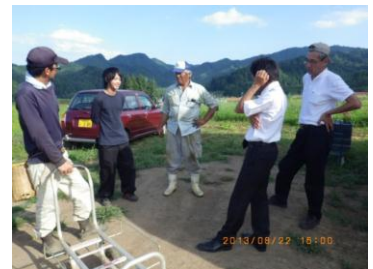
また、青年農業士代表が、若手農業者ネットワーク立ち上げの提言を行ったところ、会場から拍手で賛同を受けた。今後、農業普及課等と協力し、運営方法を詰めていくことになった。



【抱負を語る新規就農者】

### 飛騨農林 ■ 担い手育成 **農業研修生の積極的な現地受け入れを支援**

農業大学校生（2年生）7名は、7月末から飛騨地域において先進農家派遣学習に取り組んでいる。これは指導農業士宅で約1か月間、生産現場で栽培管理等の実習を行い、技術習得を目指すものである。8月8日、22日には農業普及課と農業大学校が連携して、受け入れ先の指導農業士宅を訪問し、派遣学習の実施状況の確認と学生への激励を行った。



【受入農家に指導を受ける研修生】

今年度管内では、上記以外に農大1年生5名、飛騨高山高校生延べ45名、一般長期研修生19名が研修しており、農業普及課は関係機関と連携し、受け入れ先との調整の他、就農計画の作成など将来の担い手候補に対し多様な就農支援に取り組んでいる。

### 農業経営課 ■ 普及1年目の職員 **普及手法研修を実施**

8月27日に普及経験1年目の職員2名を対象に、普及手法研修を実施した。午前中は、自分の半年間の活動を振り返り、上手くいった事例、いかなかった事例を発表しあい、何故上手くいったのか、いかなかったのか等、活動手法や要因等を互いに分析しあった。指導に当たる各農業普及課のトレーナーも、半年間の指導内容を振り返り、今後の効果的なOJTの進め方等を討議した。



【先輩の経験談を研修風景】

午後は先輩普及指導員と語る会を開き、先輩の成功した普及活動事例や失敗談の紹介を通じ、生産者との接し方、関係機関との連携方法等、普及活動を進めてゆく上でのポイントや留意点等を学んだ。

1日の短い研修ではあったが、受講生間の討議、先輩との意見交換等を通じ、明日からの普及活動に向けて、様々なヒントを得た研修となった。

## 魅力ある農村づくり

### 揖斐農林 ■ 中山間地域の特産品 **いび源流そばの栽培を開始**

揖斐地域では、景観形成や中山間地域の特産品づくりを目的として、昨年から実証ほを設置するなど、そばの栽培を推進し、面積も増えつつある。生産されたそばは「いび源流そば」として、管内を中心に加工・消費されている。

主たる経営体では、8月7日から揖斐川町坂内地区においては種が始まり、栽培がスタートした。



【そばは種の様子】

農業普及課は、基肥に化成肥料と坂内地区で産出されるコンポスト堆肥を用いた比較展示区を設置し、生産安定に向けた取組を実施している。また、揖斐川町では、獣害が問題となった久瀬日坂ゲレンデ（雪の広場）において、町単独事業で獣害防護柵を設置するなど、地域をあげた取り組みとなっている。今後、農業普及課では、排水対策、鳥獣害対策等、栽培指導をしていく。